

西諸県地域の普及活動

令和7年10月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 農業改良普及事業推進協議会幹事会及び農業経営指導士会合同の県外先進事例調査を実施

30日に、農業改良普及事業推進協議会幹事会及び農業経営指導士会合同で事例調査のため株式会社さかうえとMoo Companyを視察しました。

株式会社さかうえでは、契約栽培事業、牧草飼料事業、耕作放棄地を利用した畜産事業について、Moo Companyでは定休型ヘルパーによる人材育成等の取組について学びました。

今後、今回調査した各社の視点や課題解決に向けた工夫などを耕畜連携や人材確保等の活動の参考としていきます。



【さかうえ：放牧地を視察】



【Moo：事業概要の説明】

2) 第66回宮崎県畜産共進会（肉用種種牛の部・枝肉の部）が開催

4日に、都城地域家畜市場において、宮崎県主催の第66回宮崎県畜産共進会肉用種種牛の部が開催されました。

西諸県地域からは第1類に4頭、第2類に4頭、第3類に3頭1セットが出品されました。第2類では、高原町の内村芳照さん出品の「ふたば 252」号が優等賞3席、川野ゆかりさん出品の「しんこう 365」号が優等賞4席を受賞されました。

21日に、ミヤチク高崎工場において枝肉の部が開催され、肉牛枝肉の部では、高原町の有限会社松岡ファーム出

品の「湊 636」号が優等賞3席、小林市の有限会社馬場牧場出品の「耕天土」号が優等賞4席、小林市の株式会社竹之内畜産出品の「福富士」号が優等賞8席、小林市の岩下盛明さん出品の「葵」号が優等賞10席を受賞され、西諸県家畜市場運営部が団体優勝しました。



【肉用種種牛の部会場の様子】

※この報告書では、JA みやざきこばやし地区本部を「JA こばやし地区」、
JA みやざきえびの市地区本部を「JA えびの市地区」と表記しています。
生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。

3) 10月期子牛郡品評会が開催

7日に、小林地域家畜市場において、JAみやざき西諸県家畜市場運営部主催による令和7年10月期子牛郡品評会が開催されました。

10月12日から14日に開催された10月期子牛セリ市に市町子牛品評会を経た25頭が出品され、審査の結果、優等賞に5頭、壺等賞に11頭、弐等賞に9頭が選ばれました。なお、優等賞首席は小林市の立山健二さん出品の「ひかる1491」号（父：二刀流）、2席は小林市の立山健二さん出品の「ひかる1493」号（父：羅旺45）、3席は小林市の荒武涼太さん出品の「らら」号（父：孔明桜）が受賞されました。受賞牛は、骨のしまりに秀でており、輪郭鮮明との講評でした。



【優等賞首席ひかる1491号】

4) 第14回全日本ホルスタイン共進会が開催

25から26日に、北海道の安平町で開催された共進会に本県から出品した7頭のうち、管内から、清水豊さん、前原直希さん、（同）石山牧場が出品しました。北海道まで牛を気遣って輸送し、牛も生産者も本県代表として精一杯頑張ってきました。我が県は残念ながら、優等賞は取れませんでした。が、他県の酪農家との交流を図ることができました。



【審査の様子】

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 就農相談会を実施

8日に、小林市でこの生産での就農希望者の相談に対応しました。

ご自身の考える就農計画のヒアリングと活用のある支援策について説明を行いました。今後については、ご本人からの要望があった際に、市・JAと連携し、再度、相談対応等を行っていくこととなりました。※就農相談対応 1者1回 (内訳 小林市：特用林産物1者)

2) にしもろサップ即売会を開催

17日に、SAP会員7名参加のもと、えびの市、小林市、小林総合庁舎、普及センターの4箇所において、にしもろサップの農畜産物即売会を開催されました。当日は、会員が生産した農産物が持ち寄り、市のSAP担当者も協力しながら、会場設営から販売まで行われたところです。販売開始直後に完売する商品も多数見られ、大盛況な即売会となりました。

今後も、にしもろサップ活動の自主企画等の支援を通じて、会員の資質向上や会員間の連携強化を見据えた支援を行っていきます。



【管内4箇所で行われた即売会】

(未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

1) 次世代型水田営農推進会議のWG全体検討会を開催

9日に、西諸県地域の水田農業を考えることを目的に関係機関で構成している次世代型水田営農推進会議の担当者WGを開催しました。担当者WGでは、令和4年度から地域を俯瞰するための地図などを用いて、各市町毎に地域課題の把握や整理を行ってきました。その結果、えびの市では省力・低コスト栽培、小林市では地域計画の実現、高原町では品質向上と耕畜連携を主な課題として捉えることができました。

今後は、これらの課題を技術員会や各種協議会に共有し、各組織と連携して解決を図ることを確認しました。

(にしろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) 川間東(小林市野尻町)地区の排水状況調査の実施

2日に、農林振興局担当者と連携して、管内の畑かん整備地区におけるほ場排水に課題のある個所の状況調査を行いました。

調査は貫入式土壌硬度計で実施し、ほ場内の硬盤分布状況をデータ化することを目的に計測しました。

データは持ち帰ったのちに分析し、関係機関との情報共有、対策の実施に役立てることとなります。

今後も、畑地の高度利用を円滑に行えるように関係機関と連携して検討を行います。



【硬度計による計測状況】

(適正な管理と飼料基盤に立脚した強い畜産経営体の育成)

1) セリ前講習会の実施

12～14日に、小林地域家畜市場において、子牛セリ市開始前に講習会を行いました。10月は「子牛の発育②～哺育期～」をテーマに講習会を行い、延べ150名程度の参加がありました。

参加者からは、哺育期の飼料給与量について質問があり、当講習会を通して子牛の栄養管理について見直すきっかけとなったようでした。

今後も継続して、基本的技術の紹介を行っていきます。



【講習会に参加する農業者】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) JA えびの市いちご団地講習会

16日に、JA えびの市いちご団地において、研修生及び新規就農者向けにいちご栽培講習会を開催しました。今回は、定植後の肥培管理、花粉媒介用のミツバチの使用方法、厳寒期の温度管理について説明を行いました。受講者からは、加温機ダクトの設置方法やミツバチの導入タイミングなどについて質問がありました。

今後は、収穫最盛期における肥培管理等について個別巡回で指導していきます。

2) いちご定植後のほ場巡回

27日に、JAこばやし及びJAえびの市のいちご部会員のほ場を各JAと巡回しました。今年の定植は9月上旬から10月中旬にかけて行われており、ほ場毎の品種や育苗期の肥培管理、定植タイミング等による生育状況の違いを確認しました。今作から強草勢を意識した育苗を行ったほ場においては、クラウン径10mm以上の充実した苗が出来ており、生産者からは「強草勢の苗を作ったことで、前作に比べて定植後の萎れ等が少なくなった」との感想がありました。

11月からは気温が急激に下がってきますので、厳寒期の栽培管理について個別巡回で指導していきます。



【生産者への生育状況の聞き取り】

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) 宮崎県果樹振興協議会マンゴー部会生産者全体研修会

20日に、JAみやざきこばやし地区本部にて標記研修会が開催され、生産者63名及び関係機関21名が参加しました。はじめに試験場から、試験研究結果や県産品点検の報告、栽培講習等があり、生産者は内容について質問するなど熱心に聞いていました。その後、炭酸ガスを導入している園地2箇所と管内で一番生育の早い園地1箇所を視察し、生産者同士で、生育の様子や管理方法について情報交換されていました。

今後も引き続き関係機関と連携して支援していきます。

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) ラナンキュラス大苗の栽培管理に助言

28日に、県の花き担当専門技術指導員と、管内2戸の生育状況を調査しました。本作は今月20日頃に定植され、概ね生育は順調でしたが、一部に病害の発生が見られたため、防除指導しました。最近では気温の低下に加えて晴天も多いため、ラナンキュラスの生育に適した環境になってきています。

高品質な花の生産に向けて、今後も支援していきます。

2) 高原町花卉部会の定期巡回及び定例会が開催

30日に、部会員3戸、JAや役場から4名が参加し、防除講習を行いました。主に年末出荷作型のキクを中心に、生育状況と今後の管理について確認を行い、生育は概ね順調でした。

定例会では、JAから市場情勢報告があり、国産志向の高まりや今後の動向が説明されました。普及センターから、防除に苦慮しているアザミウマの防除について講習し、農家からは天敵利用などについて質問がありました。

資材高騰や低調な相場など厳しい環境が続きますが、引き続き関係機関と協力し、部会の活動を支援していきます。



【ほ場の状況について意見を交わす生産者と関係機関】

（20年後も生き残る西諸茶産地の育成）

1）西諸県地区茶業青年会 秋整枝巡回の実施

2日に、茶業青年会を対象に、秋整枝前の茶園巡回指導を実施し、生産者5名、関係者6名（総合農業試験場（専門技術センター）、管内関係機関）が参加しました。

各茶園では、秋番茶の収穫と次年度一番茶の安定生産に向けた栽培管理全般の指導と、貫入式高度計を利用した土壌硬度の調査を実施しました。

生産者は、不安定な気象下での秋整枝、収穫と自園の土壌環境について熱心に学んでいます。

管内の秋整枝等の作業は、10月下旬頃から始まっています。



【茶園の巡回指導】

2 プロジェクト(総合、専門)以外の普及活動

1）第5回西諸県果樹技術員会

24日に、普及センターで第5回西諸県地区果樹技術員会を開催し、関係機関12名が参加しました。会議では品目毎の生育概況やマンゴーで11月後半に実施する「おてつたび」について報告しました。また、県外視察について協議を行い、今年度は来年1月に熊本県に視察に行くこととなりました。管内の課題解決につなげられるよう、視察先でしっかり学んできます。

2）梨のコルク症発生状況聞き取り

主に王秋とあきづきで発生するとされているコルク症について、1件の生産者から発生した旨の連絡がありました。管内の現状把握のため、27日と29日にこの2品種を栽培されている4件の生産者に聞き取りを行ったところ、2件で王秋での発生を確認しました。生産者の中には「コルク症」という名前を初めて聞いたという方もいました。

コルク症は、収量や品質の低下につながる生理障害であるため、引き続き適正なかん水や剪定管理等の対策の周知を行っていきます。



【王秋で発生したコルク症】

3）梨ぶどう園地台帳聞き取り

29日に、小林市、JAこばやし、普及センターの担当で2名の生産者から聞き取りを行いました。梨ぶどう生産者から栽培面積や品種構成、後継者の有無等の園地台帳を昨年度から作成開始しており、完成後は、将来の産地規模の予測や事業承継、地域内の施設の有効活用に利用することを予定しています。

今後も引き続き関係機関と連携して聞き取りを行います。



【園地台帳の聞き取り中】

4) 西諸県地区花き技術員会第4 回定例会の開催

15 日に、高原町役場にて第 4 回定例会を開催し、関係機関 8 名が参加しました。

室内検討では、キクやキイチゴなどの主要品目の生産状況等について、情報交換を行いました。現地調査では、ラナンキュラスの大苗育苗の状況が概ね順調であること確認しました。11 月には全戸のラナンキュラス生育状況調査を実施予定です。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。